

## 「多摩区・3大学連携協議会」設立記念コンサート開く

2月8日、「多摩区・3大学連携協議会」の設立を記念して本学、明治大学、日本女子大学の音楽サークルによるコンサートが川崎市の多摩市民館で開催され、多数の音楽ファンが訪れた。（「音楽のまち・かわさき」推進協議会後援）

出演サークルは、専修大学フィルハーモニー管弦楽団、明治大学マンドリン倶楽部、日本女子大学箏曲倶楽部（出演順）で、本学はドボルザーク作曲交響曲第9番「新世界より」を演奏して満場の観客に応え

た＝写真。多彩なジャンルの音楽が楽しめる演奏会は地域の一般観客にも大学の文化的な懐の深さを印象付けた。設立記念コンサートは地域との連携に積極的に取り組む同協議会の新たな可能性を感じさせる一幕となった。

また、今回のコンサートに先立ち同協議会の設立記念セレモニーが行われ、阿部孝夫川崎市長、日高義博専修大学長が挨拶を述べた。



## ネット情報・山下清美教授「プロジェクトI」写真媒介のコミュニケーションスペースを渋谷に開設

ネットワーク情報学部の3年次必修科目「プロジェクトI」で、山下清美教授のもと研究を進めてきたメンバーが、2月19、20日、渋谷区の「Colabo Cafe」で、写真を媒介としたコミュニケーションスペース「Photonication Place in Colabo Cafe」を開いた＝写真。

コーヒー、手作りケーキで来場者をもてなす

プロジェクトのテーマは「Photonication Place ～写真の価値と出会う場所～」。ふだん気づかない写真の価値を知ってもらうためのソフト開発、空間作りを目指し、活動してきた。店内には

デジタルフォトをパソコン上だけでなく、プリントと組み合わせる楽しむために開発したソフト①

「TreaShare(トレジャー)」②「Photo Cooking」の体験コーナーを設置。カフェスペースで、手作りケーキやタコライスなど、学生考案のメニューで来場者をもてなした。メンバーからは「研究成果を試す機会が得られて良かった」「メニューの評判も上々で楽しかった」といった感想が寄せられ、リーダーを務めた新王大一さんは「システムを使ってコミュニケーションを深める場として『カフェ』という形式にこだわった。お客様と顔を合わせることで、発見したことも多く良い経験になった」と話した。

※① 数人が持ち寄った画像を交換し、アルバムを作成するツール② 用意された写真からストーリーやグループを考えて写真を選び、はがきやしおりを作成するツール



## 指定試験奨学生 7人に奨学金

司法試験・公認会計士試験等の資格試験に合格した在学生、または合格が期待される在学生を対象とした「指定試験奨学生」7人に奨学金が手渡された。

▽眞榮城 大介さん(法4)＝司法試験口述式試験合格

▽川峯 聡史さん(法4)＝司法試験短答式試験合格

▽柏谷 周希さん(法4)＝司法試験短答式試験合格

▽猪瀬 裕美さん(経営4)＝公認会計士試験短答式試験合格

▽田野 亜希子さん(経営4)＝公認会計士試験短答式試験合格

▽新村 弥加さん(商3)＝公認会計士試験短答式試験合格

▽高松 孟虎さん(商3)＝公認会計士試験短答式試験合格

## (財)情報処理学会「社会環境研究発表会」

### 永作さんらの共同研究発表

(財)情報処理学会の「第95回情報システムと社会環境研究発表会」が3月16、17日、神田キャンパスで行われた。今回は「若手の会」ということで、若手研究者・企業人が情報システムの開発、活用法など18テーマを報告。専大からはネットワーク情報学部4年次生の永作智史さん(N TTコミュニケーションズ内定)が、西村香菜さん、丸山修一さんとの共同研究「ジェスチャー入インタフェースの開発とプレゼンテーションへの応用」(指導＝綿貫理明教授、松永賢次助教授)を発表した。綿貫教授は「ユビキタス時代、人間は自然な動作によって情報機器を操作するようになります。この発表は未来のための基礎研究です」と話した。



試作品を用い、研究の成果を発表する永作さん

## 「自己啓発奨学生制度」

### 二組に奨学金

学生部では学術やスポーツの分野で顕著な成績を取めた学生に対する自己啓発奨学生制度を設けている。2月から3月にかけて次の二組に奨学金が手渡された。

▽「『ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト』アジア地区予選台北大会で大学別7位・チーム別13位入賞」

＝荒木博志さん(ネット情報4)、倉品裕多さん(同3)、中村哲也さん(同3)

▽「3年次に全日本女子バレーボールチームアナリストに抜擢されアテネ五輪出場に貢献」

＝渡辺啓太さん(同4)

同制度は学術、文芸、スポーツ、社会活動などの分野で優れた目標を達成し、さらに高い目標に挑戦する個人および団体(または達成が期待できる個人および団体)が対象で、自己推薦制となっている。問い合わせは学生生活課へ。

## 大学生の「環境」意識調査プロジェクトに参加

石崎ゼミの寺島菜緒さん

広告やマーケティングを学ぶ学生が集まり、一つのテーマについて実践的なマーケティングリサーチを行う「大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2005)」が、昨年4月から11月まで実施された。本学からは寺島菜緒さん(経営3、石崎徹ゼミ)が参加、大学生の環境意識についての調査をまとめた。プロジェクトの副代表を務めた寺島さんから話を聞いた。

参加は本学と上智、成蹊、東洋、早稲田の5大学から22人。今回のテーマ「環境問題」については「大学生は、関心は持っているが、危機感を抱いていない。地球規模で考えることも大切だが、キャンパス内の問題として考えるきっかけになるように、ということで決定しました」。

質問内容、調査票作りを終え、大学生1000人への調査を開始。9月の合宿では調査結果を分析。報告書を完成させた。11月下旬に新聞社などメディア向けプレゼンテーションに臨んだ。

調査結果は「やはり大学生は身近な環境問題に気づいていない。それは、自分の肌で感じるのではない『体感不足』がそうさせているのではないか、ということが浮かび上がりました」。

構内のゴミ箱を撤去しゴミを持ち帰るようにする。生協やコンビニのレジ袋の使用を中止する…「環境に配慮した行動を日常化させることが必要では」と提案した。

「プロジェクトに参加しての収穫は、物事を論理的に捉える姿勢が身についたこと。副代表としてみんなのモチベーションを上げていくことに苦労しましたが、長期間共に作業したことで大学間のカベを越えられたと実感しています」。



## ドイツの留学生ら附属高校訪問

1月27日、専大附属高校(東京都杉並区)をドイツのマルティンルター大学ハレヴィッテンベルクからの留学生やドイツ語を勉強中の専大生が訪ね、同校生徒と交流、有意義なひとときを過ごした。

訪問したのは、学生にドイツ語の会話指導やドイツ留学へのアドバイスを行っているシュテファニ・リガーさん(国際交流事務課勤務)、カロリネ・ハウフェさん(特別聴講生)、メラニー・フィシャさん(同)と同高校卒業生でドイツ語を勉強中の加藤康人さん(経営4)、大浜健太さん(経済4)の5人。附属高の1、2年生約30人と3グループに分かれディスカッションした。



附属高校生たちにドイツの写真を見せるカロリネさん(右端)

卒業後、国際的なサッカー指導者資格の取得を目指し、ドイツのケルン大学に留学予定の加藤さんは「なぜドイツに興味を持ったのか、勉強したドイツ語をどう生かしたいのかなどを質問されました。今年のサッカーワールドカップの開催地ですから高校生のドイツへの関心は高く、皆さん熱心でした」と話していた。

## 《留学生からのメール -最終回-》

### 支えられて10カ月 — これからは恩返しを

サスケハナ大学<米国>に長期留学中 小山未樹さん(経済4)

Meeting the Melting Pot People. 2005年6月6日。不安と期待を胸に日本を出発してから、はや10カ月。今、米ペンシルバニア州サスケハナ大学で、2期目の正規授業を受けている。

多くの人との出会い、多くの経験、そして最高の友達のおかげで、充実した毎日を送っている。



2列目中央が小山さん

けれども、異国の地で暮らすことはうれしいことばかりではない。それと同じくらい、辛いことも悔しいこともたくさんある。そんな時、助けてくれるのは、これまで出会ったたくさんの人達だ。私に手を差し伸べてくれ、優しさをいっぱいくれた。何度、助けられたことか知れない。現地の友達、教授…。周りにいる人すべてが優しい言葉をかけ、励ましてくれ、手伝ってくれる。小さなことから大きなことまで。この感謝の気持ちは言葉では表せない。

アメリカに来て感じるのは、日本では自分の力でできたことが、ここではできなくて、誰かに頼るとか、お願いするとか、やってもらうということがとても多いことだ。この「依存する」ということに最初、とても劣等感を感じた。けれども、そうやって少しずつ、私も成長しているのだろう。

残りの期間、今まで自分のために何かしてくれた人達に少しでも多くの感謝の気持ちを伝え、今度は私がその人達のために何か力になりたい。そして、後悔しないよう、今以上に一日一日を大切にしたいと考えている。